

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2893000147		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから尼崎小田		
所在地	尼崎市西川2丁目37-3		
自己評価作成日	平成24年8月3日	評価結果市町村受理日	平成24年9月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブナルク兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成24年8月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ご入居者様・ご家族様に『安心』をお届けする」をモットーに、ご入居者様の生活を支援する取り組みについて日頃から職員間で検討し、取り組んでおります。また、入居者様・ご家族様にとって安心いただけるためには、職員の質の向上が不可欠であり、その取り組みについては委員会活動・施設内勉強会・外部研修への参加などを通じて少しずつでも、しかし確実に成長できるよう努めて参ります。『何かに特化した特別な事業所』というよりも、生活の場として『当たり前の日常の穏やかな風景がそこにある』というような生活感溢れる『安心』できる事業所作りに尽力していきます。
また、地域との連携を含め、事業所が孤立しない工夫を行い、明るく、開けた事業所となるように努力していきます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して4年、独身寮を改造してオープンされた施設でやや設備面でのハンディは否めない。また、職員がなかなか定着しない現状で、着任2年目の管理者の責務は大きい。この1年を振り返ると、地域の夏祭りに実行委員として参画して協力した。また、ホームの夏祭りに地域の方々に多数参加していただき、地域との交流を深めている。重度化しても、可能な限りホームで過ごしていただけるよう、家族や医療機関関係者と密接に連携し「看取り」にも、積極的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1.心を許せる人間関係、安心できる場所を作ります2.本来あるべき生活能力を奪うのではなく、引き出します3.同じ生活者として、うれしい時には共に喜び、たのしい時には共に笑うホームにしていきます これらを毎朝朝礼時に唱和しています。	地域密着型サービスの意義を、3点にまとめた理念を作り、これを管理者と職員が共有して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の医療生協さんと行事ごとの連携を取ったり、公園や近隣への散歩、商業施設や近隣レストランの利用などにより近隣との交流を深めている。	1Fスペースを活用して夏祭りを開催した。これに医療生協の役員や自治会の会長・副会長の他、近隣のマンションの住人など多くの人に参加してもらい、利用者と家族、職員と一緒に楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1階のスペースを活用した地域に向けた発信が行えるように検討していきたいと考えている。。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見を職員会議などで報告しサービスの向上に活かす努力をしている。	運営推進会議は、利用者・家族の代表、地域住民代表(自治会役員)、民生委員、地域包括支援センター職員、連携医療機関の職員と事業所関係者をメンバーとして、2か月に1回、平日の午前中に開催している。出された意見等は事業所の運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括センターの職員に参加して頂き連携を図り、不明点などあれば尼崎市役所介護保険事業担当課に確認するようにしている。	運営推進会議に出席の地域包括支援センターの職員との連携の他、市の介護保険担当課に電話等で疑問点等を質すなど、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	エレベーター及び階段の施錠がされており、開錠した状態にするまでに至っていない。玄関は夜間のみ施錠としている。	独身寮を改造した建物の構造上、エレベーター、階段室の施錠がある。これが利用者にとって、身体拘束につながることはないよう、管理者・職員は最大の注意で取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修教育委員会活動の中で虐待に関する施設内勉強会の実施。 また、職員会議の際に、話す機会を作っている。	内部研修を繰り返し、結果的に虐待につながっていないかを職員間で確かめ合うなど、共通意識を持って虐待防止に取り組んでいる。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	経済的な問題を抱えている入居者様の事もあり、今後、成年後見制度や権利擁護について学び、行政を含めた対応を検討していきたい。	利用者の高齢化が進む中、この種の課題は避けて通れない重要なものであるとの認識で、代表者・管理者は研鑽に励むことを望みたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族からの質問について十分に説明している。	契約に際して、利用者や家族が不安な感情をもつことのないことが第1であるとの考えで対処している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来館時等ご家族にまめに声かけを行い、意見を聞く努力をすると共に意見が寄せられた場合は反映する努力をしている。	半年に1回の家族会や投稿箱への意見は多くないが、可能な限り、家族の意見は大切にしたいとの管理者の熱い思いは感じられた。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談や職員会議等にて意見を聞く機会を設け反映する努力をしている。	月1回の職員全体会議、ユニット会議、リーダー会議などを通じて、職員の生の声を確認して、改善につなげるように努力している。	代表者・管理者は、職員の働きやすい職場環境を整備することが、結果として介護サービスの質の向上に結び付くことを自覚して、あらゆる問題に対処していくことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週の週報会議・館長会議などを通して、会社の方向性を明確にしながら、各事業所の現状の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各事業所からの外部研修への参加はもちろん、本部主催の研修の実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	尼崎市グループホーム連絡会に参加している。その中で様々な取り組みがされている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接や以降の面会、また体験入居などを通して、安心していただけるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の可否に関わらず、しっかりとお話をお聞きした上で、現状できる事の説明や、他サービスについての説明なども含めて、レスパイトケアの視点を持ちながら行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、本人様の不安軽減、安心へと繋がるよう心がけてお話させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ生活者としての立場と専門職としての立場が両立されるよう努めています。(できる事などは教えて頂くような場面を作るなど)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様を含めたチームである事の説明をさせて頂き、して頂ける事はやって頂くようお願いしています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活されていた場所へお連れするなど、可能な範囲で関係性の継続に努めています。	開設から4年を経過、入居期間の長い人ほど馴染みの人や場との関係が希薄になるのは止むを得ないが、利用者各人なりの、支援が重要である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の状況の観察から、関係性の把握に努め、その方らしく過ごせて頂ける様配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様がボランティアに来てくださるなど、出来る限りの関係維持に努めています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味や嗜好などなるべくご本人の意向を尊重し生活できるよう支援計画し実践を心がけている。	一人ひとりの思いや暮らしの希望は、日常の介護を通じて、職員が把握に努め、気づきノートによって、職員全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを行い情報収集の努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の状態や希望に合わせて対応するよう努めている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスにより、より本人様らしく安全に健康に過ごして頂けるプラン作りを心がけています。	3か月に1回、管理者・ケアマネジャー・ユニットリーダー・担当職員が、家族等の意見も参考に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、個人連絡ノートを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化などに対応して柔軟な支援に取り組むよう努力しているが、実践できていない事も多い。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への散歩や、買い物など出来る限り、外へと繋がっていただけるよう配慮しています。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターをベースとした医療連携が主であるが、かかりつけの医師との情報のやり取りをしっかりと行いながら、日常の健康管理及び適切な医療への連携を行っています。	ホームドクターの訪問は週1回あり、利用者は、ユニットごとに、2週に1回の診察を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	立花みどりクリニック訪問看護との24時間ホットラインを含め、適宜必要な指示を受ける事が出来るように体制をとっています。また、それらの指示が、全員に行きわたるようノートの活用をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供を行い、連絡をとるよう努力している。		
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	時期については家族様の精神面を考慮しながら医療を含め取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のありかたは、家族等関係者と話し合って対応している。過去に2人の看取りを経験している。	人として、人生の終末期をどう過ごすかは最大の関心事といえる。事業所の方針を明示して、利用者や家族の安心につながる取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職の際に消防の応急手当講習の参加をできる限り行っている。 また、法人内研修においても緊急時の対応勉強会などを開催している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練・避難訓練は行っているがそれ以外の災害対策はマニュアル止まりである。 現在地域との協力体制は総会でのアナウンス程度であるが、町会長と話ができて、検討していく方向にある。	年に2回、消防署の指導を受けて火災訓練を実施している。スプリンクラーは設置されている。	各種の災害が多発する現状から、あらゆる角度からの災害対策を検討しておくことが重要である。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	努力しているが、職員の自己満足の部分もある。会議の度に、「割れ窓理論」などの話から、正せるように周知しています。	「人格の尊重、人としての誇りを傷つけない」ことはどういうことかを、根底にした介護の在り方について、職員会議等で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様が決定をして頂けるように本人様にお聞きしながらすすめています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り、個別のケアプランにて立案し、希望に沿えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択など、自分で選んでいただけるよう促しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事摂取量や嗜好に配慮し、提供させて頂いている。また、入居者様ができる事は手伝って頂く様働きかけている。	食材は専門業者から調達して、職員が調理している。一人ひとりの好み等は業者に伝えて、メニューに反映するようにしている。気候の良い時期には、近くのレストランで外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や食事チェック表などを活用しながら、その方の状況の把握をし、必要な介助の提供をおこなっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施していただくよう声掛け・一部介助を行っています。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用により、実施。また普段の状況の把握にも努力しています。	プライバシーを損ねることのないよう、排泄のこえかけなどに注意して、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取や歩行などで働きかけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回/一人を基本とはさせて頂いているが、必要に応じて対応させて頂いており、毎日入浴の方もおられる。	週3回、午後の入浴を基本に、希望により柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態の把握から、快適に入眠頂ける様、個別の対応を出来る限り行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分とはいえませんが内容を確認できる体制を作り、変更があれば申し送りにて情報共有している。しかし、ヒヤリや事故の発生をゼロに出来ていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプランにその方らしさを維持できるよう立案させて頂いている事や、本人様の嗜好により食事の内容を考慮したりしている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	努力している。 お誕生日に個別外出をしたり、普段の散歩や買い物を実施したりしている。	近くの公園への散歩、コンビニ・スーパーへの買い物などに出かけている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているがダブル予防のため大きな金額は個人で所持されていない。小銭程度の物を自己管理頂いている方はおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な範囲で行うようには心がけているが、実際に手紙を出したり、電話をかけられることはほとんどない。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いスペースではあるが、季節を感じていただける様な装飾や作業レクなどを実施している。	建物の構造上による制約もあり、利用者にとって居心地のよい共用空間とは?と考えさせられる。更なる工夫が必要といえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを置き、気分を変えて頂けるように配慮している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくなじみのものを持ってきていただけるようお願いしている。が、あまり持ち込みの物品は増えてはいない。	調査時に数人の居室を見せていただいたが、驚くほど個人の持ち込み物が少ない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや必要に応じて看板などを使用し、出来る限り、自立した生活が送って頂けるよう工夫している。		